

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス静岡敷地教室			
○保護者評価実施期間	2026年1月7日 ～ 2026年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2026年1月7日 ～ 2026年1月7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職がそれぞれのお子さまに合った療育プログラムをオーダーメイドで考案している。	作業療法士や保育士は、お子さま一人ひとりの特性やニーズに基づいて、個別に最適な療育プログラムを提供しています。専門職が連携して、身体的・精神的アプローチを組み合わせることで、より多角的な支援を実施し、また、個別の進捗に応じて柔軟にプログラムを調整し、定期的に評価を行って改善策を講じています。	今後は、外部の専門家との連携を強化し、最新の療育方法やプログラムを導入。定期的な研修や勉強会を実施し、スタッフのスキル向上に努め、お子さまに最適な支援が提供できるよう工夫を続けます。
2	事業所内で、支援についての検討会を毎日行っている。	毎日実施する支援検討会では、スタッフ全員が各お子さまの支援状況を共有し、適切な支援方法を話し合います。個別ケースに焦点を当て、改善策を検討することで、状況に応じた柔軟な対応が可能になります。この会議を通じて、チーム内での情報交換や意見交換が活発になり、スタッフの連携が強化され、支援の質を常に高めるために、毎日の検討会を欠かさず行うことを意識しています。	支援検討会の頻度や内容をさらに充実させ、データを基にした評価や分析を取り入れることで、支援の精度を向上させます。また、外部の専門家を招き、客観的な意見を取り入れることも検討しています。
3	定期的な園訪問を実施し、関係機関との連携を図っている。	定期的な園や学校を訪問し、現場での支援状況を把握しています。また、保護者や関係機関との密接な連携を行い、支援内容が一貫しているかを確認しています。訪問を通じて、現場職員と意見交換し、お子さまの支援計画を共同で見直し、改善策を提案。関係機関との情報共有や連携強化により、支援の質が向上し、より効果的な療育が実現できるよう努めています。	園訪問の頻度を増やし、さらに詳細な情報収集を行います。関係機関との定期的な合同会議を実施し、各機関との連携強化を図ることで、より一貫性のある支援を提供できるよう改善を進めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎業務をおこなっていない	送迎員の配置の難しさや社内に車の用意がないため送迎業務を行うことが難しい。	今後、安全性や効率性を保ちながら送迎業務を行う仕組みを検討していく。
2	一回当たりの支援時間が短い	一対一の個別療育のため、お子さまの集中力の持続等を考えた際に、長時間の支援に難しさがある。	保護者の方の意見や職員の意見を参考にしながら必要に応じて支援時間の検討を行う。
3	非常時等の対応について保護者への周知が不十分である。	マニュアル等の配置は行っているが、わかりにくさがあったように感じる。	今後は個別の声かけを積極的に行い、マニュアルの配置場所も検討していく。